



## 恐竜 はなぜ化石になったの

### 化石は自然がつくった実物見本

生物の死体などを、土の中にうずめておくと、土の中の小さな生き物のはたらきで、やがてくさって土になり、なくなってしまう。シベリアで、氷づけになったマンモスが見つかったとか、砂ばくで、ミイラになった動物が発見された、などの例があります。これらは、温度が低すぎたり、水気がなくて、死体をくさらせる微生物が、はたらかなかつたから残っていたわけです。

恐竜が死んだとき、死体が雨などで流され、川や海の底などにしずむと、その上にどろや砂がどんどんたまっていきます。死体の肉は魚に食われたり、くさったりして、骨や歯だけ残ります。水底のどろの中では、微生物のはたらきが、骨までくさらせるところまではいかないからです。何百万年、何千万年もの間、どろがどんどん積み重なっていくうちに、すごいどろの重さにおされて、どろや砂が石になっていきます。この石におされているうちに、骨の成分が、少しずつ石の成分に置きかえられていきます。こうしてできたのが、化石です。化石で残るものは、ほんのわずかで、大部分の生物は、くさってなくなってしまう、生きていた証拠は何も残りません。

### 化石になった生き物の年代がわかる

どろは毎年積み重なっていきますから、運よくくさらずに残り、同じころ生きていた植物の葉やこん虫なども、どろの同じ層に化石になって出てきます。これらを調べることで、このどろの層が、今から何年前のものかを調べることができます。

地球の表面は、火山や地震などでたえず変化しているため、海底がもり上がって山ができたり、がけくずれなどで、地下の深い所の地層が現れたりして、化石が地表に出てくるのです。（監修・今泉 忠明）

